

表3 学習・教育目標とその評価方法

学習・教育目標	関連する基準1(1)(a)～(h)の項目	評価方法	備考	
(A) 総合能力	コミュニケーションおよびプレゼンテーション能力	(f), (d)	設計演習基礎、設計演習I～III、特別研究の授業および演習で、図面・模型・論文などの作成課題を与え、説得力のある作品や論文を作成したかについて評価を行うとともに、日本語や英語を用いて自分の考えや意見を他人に的確に伝えることができる能力を養成したかについて批評会や発表会で評価する	
	建築の価値を多面的に理解する能力	(a), (e)	設計演習I～III、構造設計演習、建築環境工学演習、特別研究の授業および演習で、図面・レポートなどの作成課題を与え、多面的な観点から建築作品やレポートを作成する能力を養成したかについて評価を行う	
(B) 専門知識と基礎知識	科学的問題解決能力	(g), (c), (e), (f)	建築工学概論の授業で、建築の構成要素に関する概論を講述して種々のテーマに関する試験を行い、建築行為を科学的に捉える視点を学習したことを評価する。また、建築応用数学、自然科学系基礎科目および人文社会科学系基礎科目に関する授業を行い、定期試験により建築学を科学的に捉えるための基礎知識・学力を養成したことを評価する	
	建築の設計・計画的側面の理解能力	(d), (e)	建築計画学I、住居計画学、建築設計論、建築論、都市・地域論、景観デザイン論、行動・建築デザイン論、建築生産I、日本建築史、世界建築史、日本都市史の授業で、建築・都市空間に求められる用途、機能、構成、美しさ、快適さ等の条件を理解し、条件に適合する優れた空間を創造することのできるデザイン能力を養成するための専門および基礎知識を講述し、試験あるいはレポートにより修得度を評価する	
	建築の構造的側面の理解能力	(d)	建築構造力学I、II、鉄筋コンクリート構造I、鉄骨構造I、耐震構造、耐風構造、建築基礎構造、建築材料の講義で、建築物の力学的・構造工学的現象を把握し、種々の外乱に対する建築物の安全性の評価や条件に適合する構造設計を行うことのできる能力を養成するための専門および基礎知識を講述し、試験により修得度を評価する。さらに、構造・材料実験の演習で、各種構法で使用される材料や部材の実験を行い検討する課題を与え、レポートにより修得度を評価する。	
	建築の環境工学的側面の理解能力	(d)	建築環境工学I、II、建築設備システムの講義で、建物内外の基本的な環境要素の性状を考慮して環境負荷の小さい建築が提案でき、人間の生理的・心理的反応を考慮して適切な設備システムにより快適な建築・都市空間が提案できる能力を養成するための専門および基礎知識を講述し、試験により修得度を評価する。	
(C) 実践能力	建築物を実現する能力	(d), (e), (b), (h)	建築計画学II、建築生産II、建築構造力学III、鉄筋コンクリート構造II、鉄骨構造II、建築構造解析、建築光・音環境学、建築温熱環境設計、建築安全設計、工業数学Cの授業で、計画、設計、施工等のあらゆる過程を理解し、それらの関係を総合的に理解して建築物を実現する能力を養成するための基礎および専門知識を講述し、試験あるいはレポートにより修得度を評価する。さらに、設計演習III、IV、V、造形実習、構造設計演習、建築環境工学演習、建築環境工学実習、建築情報処理演習の演習で、建築設計の過程で必要とされる実践的な演習課題を与え、図面、作品、レポートなどにより修得度を評価する	

	建築行為の社会的役割を理解する能力	(b)	建築・都市行政、都市設計学、都市環境工学の講義で、社会における建築行為の意味を理解し、それを具体的な計画・設計へと結びつけることのできる能力を養成するための基礎的および専門的知識を講述し、試験により修得度を評価する	
	職能倫理観の構築	(b)	工学倫理の授業で、建築技術者として適切な倫理観・世界観・歴史観を涵養するための基礎的事項を実例を用いて講述し、レポートにより修得度を評価する	
(D) 先駆性	問題発見・解決能力	(g), (e), (h)	建築応用数学、建築情報システム学の授業で、これまでに検討されなかった新しい観点から建築に関わる種々の問題を解決することのできる能力を養成するための基礎的および専門的知識を講述し、試験により修得度を評価する。さらに、特別研究で、新しい観点から種々の問題を解決し、優れた建築・都市空間を創造するための演習を行い、論文あるいは作品により達成度を評価する	
	独創的視点の修得	(e), (g)	特別研究で、既往の概念に捉われず、独自の視点から建築の計画・設計、構造、環境に関わる種々の問題を検討し、優れた建築・都市空間を創造するための演習を行い、論文あるいは作品により達成度を評価する	
(E) 国際的視野	多様な社会制度において建築行為を位置づける能力	(a), (b)	都市・地域論、世界建築史の授業で、国内外に存在する種々の社会制度を把握し、それぞれの社会制度に対応する建築行為の意味を多面的に理解することのできる能力を養成するための専門および基礎的知識を講述し、レポートにより修得度を評価する。さらに、特別研究で、国内外の種々の設計条件下で建築設計を行う演習を行い、作品および論文により達成度を評価する	
	グローバルかつローカルな価値観を理解する能力	(a)	専門英語および外国語基礎科目の授業で、全世界に共通の建築に関する価値観と特定の地域のみが存在する価値観の比較検討ができ、定められた地域における建築行為に役立てることのできる能力を養成するための専門および基礎知識を講述し、試験およびレポートにより修得度を評価する	

専門科目を68単位以上(必修科目4単位、選択必修科目32単位以上、特別研究を含む)。